

## 誕生！みなとオアシスおおふなと

東日本大震災から復興した「みなと」を活かした取り組み



ちば ゆずる  
千葉 譲\*

みなとオアシスおおふなとは、東日本大震災からの復興を進めている市街地を中心に構成されており、既存事業の充実を図ることを狙いに活動を続けている。本稿では、「みなと」と「まち」に近い、当市の新しい特徴を活かした今後の展望について紹介する。

### 1. はじめに

大船渡市は岩手県の沿岸南部に位置し、三陸復興国立公園の代表的な景勝地として有名な碇石海岸や、三陸沿岸最高峰の五葉山県立自然公園など、自然豊かで風光明媚な人口約3万6千人のまちである。

東日本大震災で甚大な被害を受けたが、全国の皆様からの温かいご支援をいただきながら復興を進め、現在、復興事業の進捗率は9割を超え、復興創生期間の最終となる今年度は、市民が一丸となって復興の総仕上げに向け取り組んでいる。

大船渡港の海上貨物取扱量は、震災で一時的に大きく落ち込んだが、現在では震災前の水準に回復し、岩手県最大の取扱量となっている。更に、水産のまちとしても知られ、本州一の水揚げを誇るサンマを始め、サバ、ブリ、カキ、ワカメ、ホタテ、アワビ、ウニなどの魚介類が一年を通して水揚げされる岩手県最大の漁港でもある。

また、大船渡港は湾口を太平洋に向かって南東に開き、それから北に折れて陸地に深く入り込んだ湾で、全長6km、湾内の最も広いところで2km、周囲は丘陵で囲まれ、常に風波を防いでいる天然の良港として知られている。

この大船渡港には、平成4年の初代「飛鳥」の入港以来28年連続でクルーズ客船が寄港しており、おもてなしの心を大切にした歓迎行事は、乗船客や乗務員の方々から高い評価を頂いている。

### 2. みなとオアシスおおふなと

「みなとオアシス」は、「みなと」における賑わいの創出や、地域住民の交流の促進、観光振興を通じた地域の活性化を目的として創設された制度であり、全国130以上の港が国土交通省により登録されている。

当市では、まちづくりと海の関連性の向上により「賑わいあふれるみなとまち大船渡」ブランドを強化し、住民交流と観光振興による地域活性化の促進を目的に、平成31年2月「みなとオアシスおおふなと運営協議会」を設立し、みなとオアシスの登録に向けた活動を行ってきた。

令和元年5月18日に「みなとオアシスおおふなと」として登録され、当日は、クルーズ客船入港歓迎行事と併せて、登録証授与式を開催し、多くの市民や客船の乗船客の方々の祝福を受けた。



写真-1 クルーズ客船とみなとオアシスおおふなとエリア

### 3. 施設の概要

「みなとオアシスおおふなと」は、被災した大船渡駅を含む中心市街地に新たな賑わいの拠点をつくらせと整備した、大船渡駅周辺地区土地区画整理事業エリアを中心に構成されている。

エリア内の各事業者は、それぞれが店舗を構えて事業を行っているが、エリア全体を包括的にマネジメントすることを目的として設立された(株)キャッセン大船渡が「みなとオアシスおおふなと」の中核となって、販売促進活動や各種イベントの開催、まちづくりを担う人材の育成などの事業に取り組んでいる。

「みなとオアシスおおふなと」は代表施設の「おおふなぽーと（大船渡市防災観光交流センター）」のほか、地元の方言で「大船渡にいらっしやい」を意味する「キャッセン大船渡」と呼ばれる商業施設などから構成されている。ここは震災によって壊滅したが、その後、中心市街地として新たに整備され、きれいなまちづくりが進められており、三陸沿岸道路によりアクセスが格段に向上したことも追い風となって、観光客にも好評をいただいているエリアとなっている。以下に主な施設を紹介する。

#### 1) おおふなぽーと

「おおふなぽーと」は観光情報の発信や人々の交流の拠点となる施設で、観光物産協会の窓口を設置し、地域の観光や特産品に関する情報発信や、震災時の写真展や語り部体験など、震災学習の場としても重要な施設となっている。



写真-2 おおふなぽーと（大船渡市防災観光交流センター）

#### 2) キャッセン大船渡

クルーズ客船が着岸する野々田ふ頭から徒歩8分の港に近い場所に構える商業施設であり、立ち並んだ店舗では大船渡ならではの買い物や食事を楽しめ

るほか、クルーズ客船が寄港する際には様々なおもてなしイベントを実施し、地域住民と乗船客が集い、交流する場として親しまれている。



写真-3 にぎわうキャッセン大船渡

#### 3) 大船渡市魚市場

地元水産業の中核施設であり、水産のまち大船渡のシンボルともなっている大船渡市魚市場には、大船渡を一望する見学デッキを備え、水産業や魚市場の仕事などを映像・模型・パネルで紹介し、アワビ漁の疑似体験や、漁に使う道具を見学できる展示室、とれたての海産物を楽しめる飲食店等、みなとまちの生活を感じることができる空間となっている。

### 4. みなとのイベント・取り組み

「みなとオアシスおおふなと」は、既にエリア内で行われているイベントに「みなとオアシス」ならではのアイデアを盛り込むことで、付加価値を与え、イベントを一層盛り上げることを目指している。

#### 1) 新生おおふなとさんま祭

震災後に新たにつくられたキャッセン大船渡エリアでは、本州一の水揚げを誇るさんまを使った「新生おおふなとさんま祭」を開催している。全国的にさんまが不漁となった2019年にも、水揚げされたばかりの新鮮なさんま2,000匹を無料でふるまい、多くの来場者に喜んでいただいた。

#### 2) さんま焼き師認定試験

さんまを食べるだけでなく、体験とふれあいを通じて大船渡市のファンになってもらいたいとの願いを込めて、2016年から「さんま焼き師認定試験」を実施している。焼き方などの実技試験と筆記試験

を2日間かけて行い、1日目の夜には「世界さんま焼き師活動報告会・交流会」も開催し、復興支援で繋がった国内外の方々との再会の場になっているほか、観光、震災学習を兼ねて多くの受験生が訪れている。

### 3) 三陸・大船渡夏まつり

毎年8月初めの土曜日に開催される三陸・大船渡夏まつりは、出店が立ち並び、多くの観光客が訪れる市内最大規模のまつりとなっている。ステージイベントや道中踊り、夜にはきらびやかな海上七夕船の共演により8,000発の花火が打ち上げられ、人々を魅了している。

2019年にはキャッセン大船渡を中心にグルメイベントや歌謡ショーなどが複合的に開催されるなど年々盛り上がってきている。



写真-4 夏まつりを彩る海上七夕と花火

### 4) クルーズ客船のおもてなし

クルーズ客船が着岸するふ頭では、お出迎えのセレモニーを開催し、郷土芸能や、日本一の大きさを誇る踊る権現様「綾里大権現」舞が披露されるほか、出港の際には、市民が黄色いハンカチを振ってお見送りするなど、市を挙げての手づくりの歓迎行事は多くの乗船客の皆様から好評をいただいている。高齢の方や足腰が弱いとおっしゃる方にも気軽に楽しんでもいただけるよう、港からキャッセン大船渡までのシャトルバスを運行している。

また、客船入港にあわせてキャッセン大船渡エリアでイベントを開催し、乗船客だけでなく、市内外から見学に訪れる方々の立ち寄りにつなげている。



写真-5 日本一の踊る権現様「綾里大権現」で乗船客お出迎え

## 5. 今後の課題

「みなとオアシスおおふなと」は昨年登録されたばかりで、これからは、各種イベントや、クルーズ客船の誘致・歓迎行事などを通じて「みなとオアシス」という素敵な名前を国内外の皆様幅広く認知していただけるよう更に取り組みを進めていきたい。

## 6. おわりに

平成23年3月11日、当市を含む三陸地域は東日本大震災津波により甚大な被害を受けた。被災直後の街は瓦礫と化し、道路網が寸断され、上下水道・電気・電話も使えない絶望の中、亡くなった方の収容や行方不明者の捜索、避難所運営などに必死だったことが今も鮮明に思い出される。あれから10年目を迎え復興を肌で感じられるようになった現在、改めて、物心両面から多大なご支援をいただいた国内外の多くの皆様に深く感謝を申し上げます。

また、人口減少や少子化により地域経済の縮小が懸念される中、当市では復興後のまちづくりに向けて着実に歩みを進めていかなければならない時期を迎えており、みなとオアシス登録を地域経済の活性化の弾みとして、観光誘客にかかる各種事業やシティプロモーションの取り組みに活かし、観光・交流人口拡大に結び付けていきたいと考えている。